

給付型奨学金ヒアリング
機関要件の見直し案についての見解

認定NPO法人キッズドア
教育支援事業部 東北エリア
黒崎若葉

厳格化に伴う、要件を満たさない学校の増加

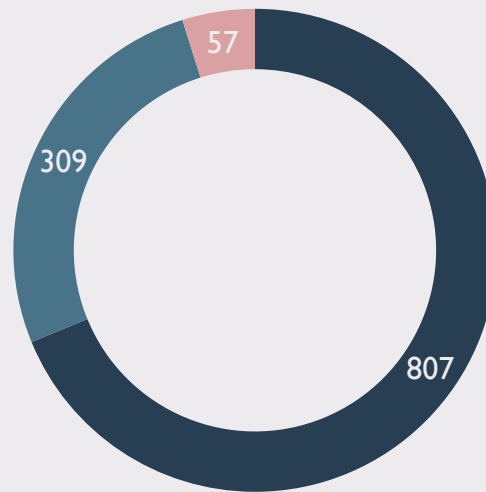
気になる点①

これまで「要件を満たさない範囲」に該当していた学校数は、専門学校含め15校でした。

しかし、機関要件の厳格化に伴い、429校に増加。

うち大学・短大・高専は**144校**あり、高等教育機関数のおよそ10%にあたります。

高等教育機関数



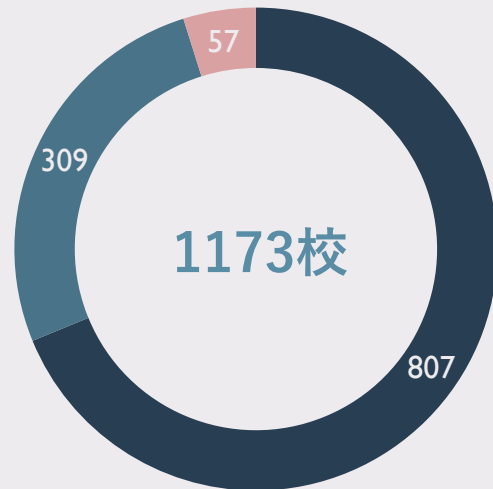
■ 大学 ■ 短期大学 ■ 高等専門学校

□ 高等教育機関（大学院含む大学・短期大学・高等専門学校）は**1173校**

□ 参考：文部科学省
令和4年度学校基本調査（速報値）

日本の高等教育機関の現状

高等教育機関数



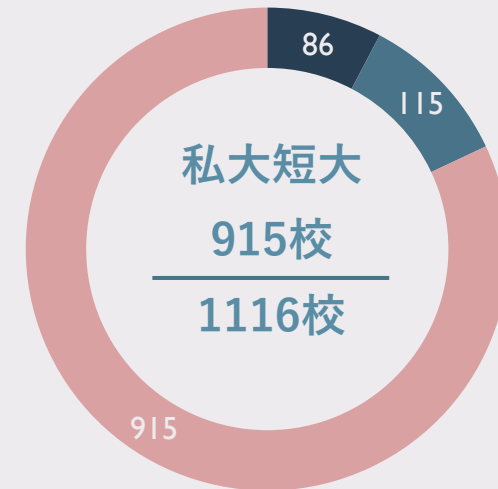
■ 大学 ■ 短期大学 ■ 高等専門学校

今年度の学校基本調査（速報値）によれば日本の高等教育機関1173校のうち、大学・短大の国公立・私立の内訳は

国立が86校、公立が115校、私立が915校であり、

大学・短大**1116校**のうち4分の3以上、**約82.0%**が**私立校**です。

大学・短大の 国公立・私立内訳



■ 国立 ■ 公立 ■ 私立

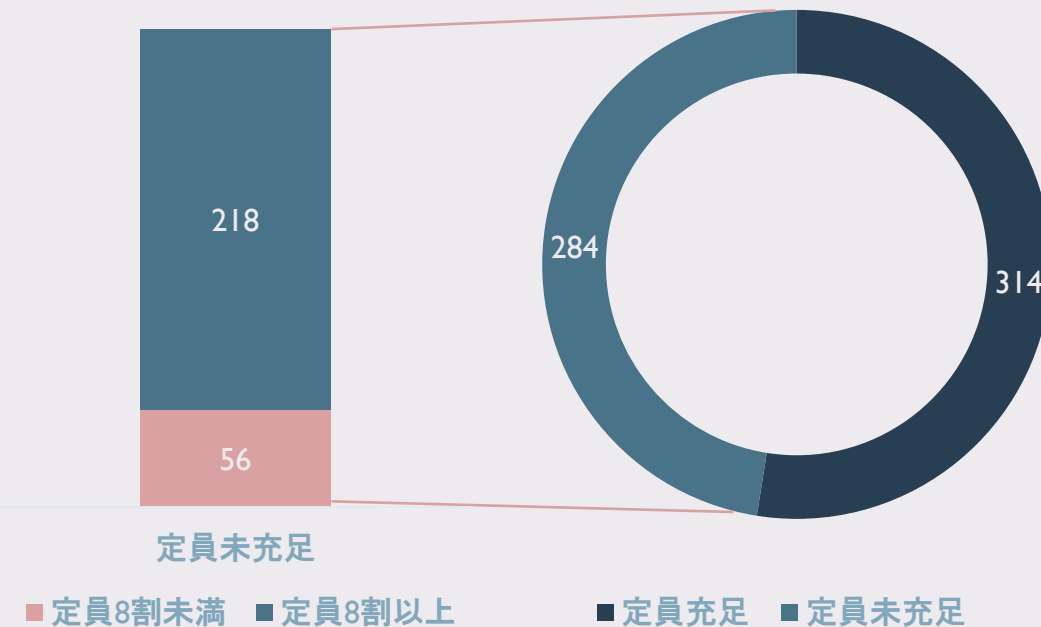
国内の私立大学・短大の定員状況

日本私立学校振興・共済事業団が実施した今年度の「学校法人基本調査」では、

集計した全国の私立大学・短大598校のうち、今年度春に定員割れした私大は**284校(47.5%)**となりました。

さらに、**定員充足率80%未満**の大学は、うち**19.4%**で、前年の14.2%から5ポイントの増加となっています。

学校法人基本調査
私大短大計598校



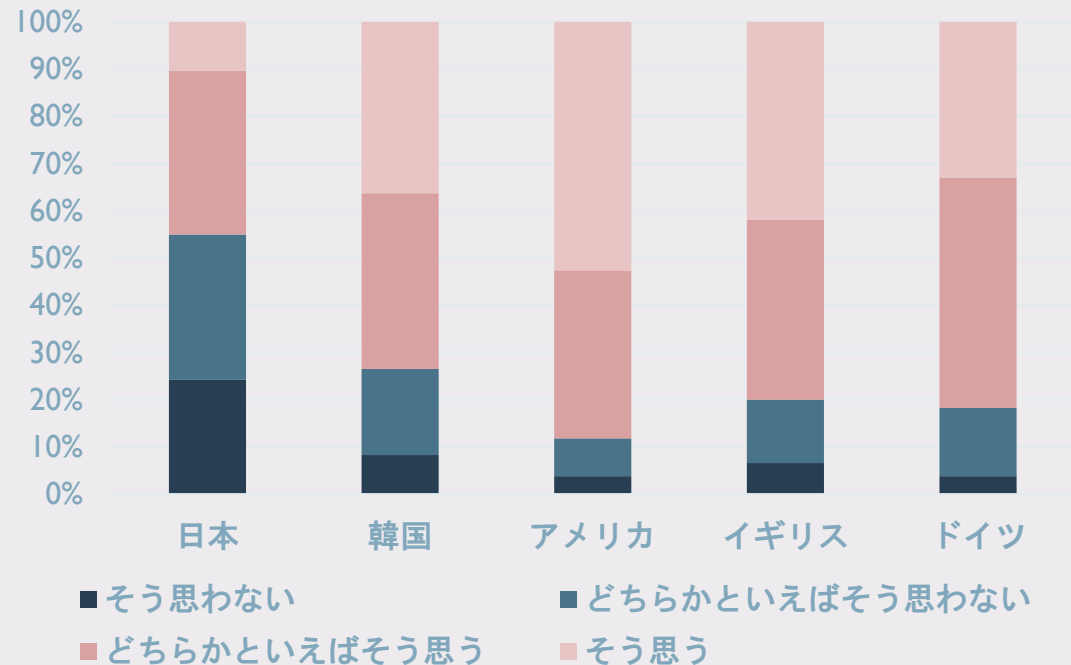
子供たちの選択肢の縮小

気になる点②

今後「要件を満たさない範囲」に該当する学校はさらに増加するとも考えられ、**子供たちの選択肢はより狭くなってしまわないでしょうか。**

- 日本の子供たちは諸外国に比べて自己肯定感が低い
- 「大学に行けた」という達成感の子供支援の観点でも、自己肯定感を大いに助けます。
- 参考：内閣府 令和元年版「子供・若者白書」

自分自身に満足している



今ある大学と地域の課題

気になる点③

子供たちの選択肢が狭まってしまいう
ということは、選ばれる大学、選ばれ
ない大学が生まれ、大学間競争の激化、
各地域ごとの格差が生じ、

**大学の経営や地域にさえ影響を与える
ことにはつながらないでしょうか？**

- 大学におけるさまざまな活動は地域経済に大きな効果をもたらしていることがわかる研究結果も出ています。
- 研究によれば、教育活動だけで見ても**所得で約370億円以上、税金で12億円以上**の増加を地域にもたらしています。
- 参考：文部科学省 平成22年度「大学の教育研究が地域に与える経済効果等に関する調査研究」

進学できたのは地震のおかげ

今、私の家族は

中学3年生で今年受験生の妹と小学5年生でラグビーが大好きな弟、そして80歳近い祖母の三人を

高卒で小さな町工場勤めの父とパートタイムで働く母が二人で支えています。

年収は二人で500万もいけば良いほうで、正直なところ、我が家には三年後、妹を進学させてあげられる貯金はありません。

私が大学に進学できたのは、2011年3月11日に震災があったからです。

妹を大学に行かせてください

震災による被害を受けた学生への学費減免の措置があり、高校生の時に国からいただいた震災関連の奨学金70万円があり…

申請した日本学生支援機構の奨学金と合わせて、なんとかようやく卒業できたにすぎません。

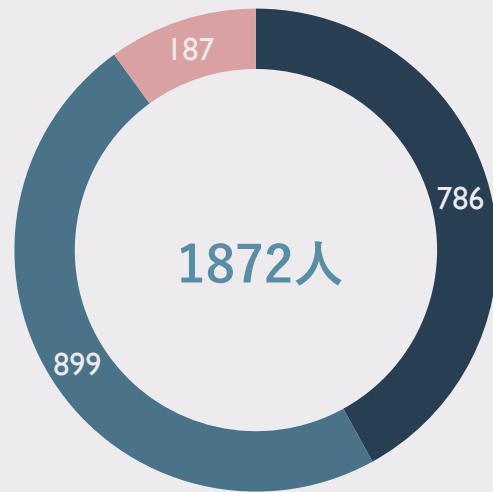
私は大学に行かなきゃよかったとさえ思うこともあります。

小学生のころから国学院に行きたいと明確な夢を持っていた妹が、私のせいで大学に行けないかもしれないのです。

いま、日本全国におなじような状況の子供たちは大勢います。

子供に夢を諦めさせない制度に

キッズドア生徒数合計



■ 高校生世代 ■ 中学生
■ 小学生

キッズドアでは、昨年度1872人のさまざまな背景や課題を抱えている子供たちをサポートしてきました。

また、そのうち59人もの子供たちが大学、専門学校に進学し夢を追いかけいています。

私は、**すべての子供たちが、夢や希望を諦めないでいられるような制度であること望みます。**

□ 志望校選択の理由：

私立大学は「**学べる内容やカリキュラムが良い**」「**めざす就職や仕事につながるため**」など、具体的に将来を見据えた理由が多い。

□ 参考：JSコーポレーション「大学への志望校選択理由」（2021）